



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

令和3年度中林梧竹記念館第2期収蔵品展 「屏風の名品」開催します

今回の収蔵品展では、屏風の名品を展示しています。力強い梧竹の作品を楽しんでいただければ幸いです。

- ◆期間 9月11日(土)～12月28日(火)
- ◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室
- ◆観覧料 200円(大学生以下無料)



◀「天福金玉」

小城市立歴史資料館・中林梧竹記念館 夏休みクイズ実施中です

小城市立歴史資料館・中林梧竹記念館では小学生を対象としたクイズを実施中です。夏休み期間中に開催し、誰でも参加できます。

- ◆期間 ～9月5日(日)
- ◆参加方法 受付で解答用紙を配布します。
- ◆観覧料 無料

※解答者には中林梧竹絵はがきを進呈します。



おぎの歴史 * 探検隊

柳生新陰流と小城藩(その2)

小城に伝えられている兵法(「平法」と書かれるものも多い)家伝書は、小城藩主二代直能に宗矩から与えられた『玉成集』などがあります。また、家伝書の写しも残されており、藩士の間には伝えられました。

初代元茂は江戸にいたことが基本でしたが、元和4(1618)年、宗矩は元茂(当時は「三平」といった)に『見之巻』『観之巻』『切合極意』の三巻の書を授けています。これは現在判明する宗矩が著した最初の兵法家伝書と考えられています。直能も宗矩から、寛永15(1638)年には『進履橋(=目録的なもの)』、正保2(1645)年には『玉成集』をはじめ多くの指導書を与えられました。『玉成集』は元和8(1622)年に初めて著されたものです。そのほか、宗矩の子、三蔵とも交流があったことで、岡山神社(藩主元茂、

直能を祭神とする)の北に、但馬守宗矩を「玉成社」、三蔵を「武正社」として祀られています。柳生新陰流は、直能の時代になると徳川幕府も安定してきており、戦の技術というより精神修養を目的とするようになり、小城藩士にも伝えられました。宗矩は沢庵宗彭和尚の教えを受けており、政治への心構え、子弟へのしつけなどを説いた手紙があり、「内々のこと」とした私的な手紙ながら、その写しをつくり、武士としての精神・心構えを説き、小城の藩士の間にも広まったようです。

直能の後、柳生新陰流を継ぐのは息子の三代元武ではなく、なぜかその弟の元敦に伝えられ、以後、西小路鍋島家に伝えられてきました。(続)

小城郷土史研究会 / 著



◀岡山神社境内
「玉成社」「武正社」

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132